



# 角笛会会報

発行所

日本大学生物資源科学部  
獣医学科角笛会〒252-0813  
藤沢市亀井野1866  
0466-84-3644

学生とのコミュニケーションを深め、後輩を育成しよう

## —母校の教育改革への取り組みへに 対する角笛会の協力について—

角笛会会長 日比野 次郎



校友各位に於かれましては、御健勝で各界で御活躍されて居られることと心からお慶び申し上げます。

日頃の皆様のご厚情を衷心より御礼申し上げる次第でございます。

角笛会は申すまでもなく、獣医学科学生がその卒業後、自動的に所属することになる校友会組織であります。1907年の学校創始以来、本会はその前身をも含めますと、今年で94年の星霜を経、他の諸会とは遙かに離れた歴史を携えて、今も活動を続けております。

校友会あるいは同窓会というものは、得てして親睦を専ら旨とする組織であることは申すまでもございません。しかし、学校があれば校友会、同窓会の当然の如くに生ずることもまた極自然なことであり、これらを欠くような「教育機関」はそれだけで、その名に果たして値するのか疑問となります。

本学獣医学科は、姑息な自負などと無縁に、明らかに私学獣医教育における押しも押されぬ名門私学であります。現在も修学希望者は多く、卒業生も層を重ね、また在学生も陸續と控えております。

それにもかかわらず残念ながら、角笛会の活動は、僅か十年前と比べましても、驚くほどの低下をしている様に見紛う程となったと感じております。これまで単なる親睦・懐旧の念のみで佳しとしてきた運営に加えて、もうひとつ校友会組織の存続、という観点からも、角笛会の今後を思慮しなくてはならぬ時期に逢着した、と昨今認識している次第です。

角笛会に対する観念の低下の原因には様々な理由がありましょう。何よりも私ども角笛会執行部は、よくよく運営に心を碎かねばならぬことは申すまでもございません。一方、巣立つ若者らにおける地道な啓蒙も、従来に無く高い比重を増して考えねばならぬことだと存じます。校友諸兄には、日々後輩と接する機会のある時には、お力添えを御勘案戴ければ、これに勝る本懐はございません。

獣医学科の卒業生は、自動的に校友会「角笛会」の会員となり、校友会名簿に登載されるわけですが、卒業生の中には「校友会に所属したくない」「退会したい」など認識不足の人があるようです。校友会費は平成5年より卒業時に「終身会費」を徴収するようになりましたが、年々その会費を納入しないまま社会に出る人が増加する傾向にあり、将来的に運営に支障をきたすかと危惧しております。

校友会に対する関心の無さは、獣医学科だ

けでなく他学科においても同様であり、他校では入学時に終身会費を同時に徴収しているところもあるようですが、本学では事務方の協力が目下得られていない現況です。

角笛会への関心の低下には種々の原因がある様です。例えば若い世代は眼前の社会的責任、職務等個人の確立に要する比重が如何とも高く、なかなか懐旧の情に浸る暇も無く、あるいは時期でもないかもしれません。されば支部会といい、総会と申してもこれに払う心の余裕の無いことは、むしろ無理からぬことであります。或いは角笛会活動などに参加せずとも、少數ながら自己の仲の良かった知己、グループで集まり、親睦を深めることの方を好み、粘っこいものと自覚してしまう先輩後輩関係を、その誤解の儘に求めぬ者もいると存じます。いずれその齢に達して始めて校友会の価値を再発見し、新しい指導層を形創る人々でもある訳で、辛抱強く支部活動への参加を勧めて戴きたく存じます。

近年、これらとは別に、若い卒業世代がしばしば口にする言葉として、メリット論を耳にする機会が多くなり、しばしば驚かされます。すなわち、角笛会には如何なる利点があるかを明らかにせよ、というわけです。角笛会への入会は卒業と同時の自動的なものである認識の、かく薄いことにもとまどいを覚えますが、ここで卒業生の申していることは、入会の先にある、会自体の存立意義にあることは明らかであります。

申すまでもなく、社会における人間関係は無形なものです。校友会が如き組織の利点について、一歩下がって敢えて申すのならば、むしろ難しいことなど何も無く、それは相互親睦の語の範囲に留まるものに過ぎません。けれど、本来、契約を本性に成り立っている社会機構の一方で、校友関係という、本態に非契約、非営利的な組織の一般とは異なる無形で特殊な性質を理解するのに、メリットの有無のみに立脚した得失論議は、どこかしら偏向の感を否めず、公平な認識とは申せぬかと思う次第です。

こうした発想の根源を若齢、未経験、幼稚性等に帰し、これに泰然悠揚として処する態度は好ましく思えるものの、しかし、適切な対策を探らぬ場合、早晚、大節を喪うことになりかねません。徒に伝統全般を軽視することを憚らぬ軽薄な精神的不遜と未成熟な幼稚さとの蔓延が懸念されるのです。

情報化時代の直中に教育されている現代の

後輩達に、本会の「親睦性」は、それのみでは必ずしも積極的参加の動機付けとはならぬかもしれません。私達も、会の発展を目指し、新しい振興策に真剣に取り組まねばならないと考えます。

私は、従来の会の在り方に加え、角笛会が後輩学生に新たに種々の機会を提供することを通じて、在学生と校友とが細やかに接することの出来る仕組みを造り、会発展の新たな礎と致したいと考えます。

その具体案として、今回の総会におきまして、在校生への校友獣医による研修、見学機会の提供を提案させて戴き、ご承認を賜りました次第です。付きましては、校友諸兄におかれましては、何卒御支援、御協力を賜りたく、御願い申し上げる次第であります。

素案としては、主として1~3年次学生の希望者に、夏、冬、春等の長期休暇中かつ学務に支障の無い期間、校友開業者等における実習、見学の場を斡旋する、その際の傷害保険加入費を角笛会で負担する、ことを骨子と致します。

獣医学科学生は、例外的な場合を除き、5年次以後、漸く学外実習を始める者も少なくありません。全般的には、「現場」に接する機会の少ない現状がございます。その理由として、高学年になると始めて「獣医診療」の感覚が身に付いてくる点で向学心は高まるものの、やはり学業の比重は学年が上がるにつれて高くなり、また研究室業務にも邁進せねばならず、この為長期休暇も占有されがちなことが多く、また実習を志しても適当な受け入れ先の情報を欠く等を挙げられると存じます。

1~3年までの低学年時代には、学業も厳しいながら、休暇時の余裕はまだあります。獣医師を目指す前半段階にいる学生達は、獣医師の現場に対する素直な関心が高く、数ヵ所の実習を、それぞれ或る程度の期間体験することも可能です。こうしたことは、彼らに貴重な経験を授けるのみならず、獣医師業務への正しい認識を養うことにも繋がり、良き思い出と共に、実質的な校友関係を築くことになると思うものです。

この実施の為には、全国から参考している学生の状況に対応出来るべく、本会各支部における、研修受け入れ可否の状況を把握しなければなりません。

そこで、各支部に対し、概ね以下の様なアンケートを送らせて戴きたいと存じます。しかし、一人でも多くの会員の皆様に受け入れのお力添えを戴く為に、その内容を予め本紙面をお借りし、掲載させて戴きました。つきましては、御高覧のうえ御意見など御寄せ戴きたく、御願い申し上げる所存であります。

前ページのつづき

## アンケート 「夏期休暇の学生実習の支援について」

若い人たちの「校友会離れ」を少しでもくい止めるためには、学生と卒業生OBが活躍する現場で実習や見学を行なやすいように、校友会が斡旋紹介するシステム作りを検討することに致しました。

夏期実習は、学年次によっては義務づけられている場合もあり、自主的にアルバイトやボランティアとして過すケースもあるので、その形態は様々ですが、休暇中、出身地へ帰省して地元OBとの交流をはかる機会があれば、有効ではないかと考えます。

実習中に万が一事故や障害については、校友会がサポートしてその期間「生命障害保険加入」により心配なく過ごせるような対応も検討中です。尽きましては、以下の事について貴支部の状況をお調べの上、御回答給わりたくお願い申しあげます。

## 調査項目

貴支部内においてOBの御厚意により実習・見学等学生を受け入れくださる場所をお知らせ下さい。

I 動物病院数 小動物( )  
大動物( )

II 衛生試験所、牧場等の類  
具体的に施設名を記入下さい。  
( )

御提出は、御多忙中恐縮ですが 月 日までに御回答下さいようお願い申しあげます。

以上

以上の各項目について御検討戴きたく御願い申し上げます。御意見等あれば何卒何でも事務局宛お寄せ下さい。また恐れ入りますが、支部におかれても、お取り纏めを御願い申し上げます。

頂戴致しました御意見は、本部で纏めまして、アンケート等も改良の必要有れば躊躇無く行い、改めて各支部宛に送らせて戴きます。

この事業を是非成功させ、角笛会と若年層との結びつきを強固に致したいものと思います。

校友の皆様の御協力を重ねてお願い申しあげます。

獣医学教育の改革がせまられての学部当局も色々と考えられる事と思いますが、その内容には色々と有りますので、学科主任の渡部先生に内容について、会報に報告して戴く様、お願いしてありますので、よく読んで下さい。他校ではその準備の為に校友からの寄付(相当額)も始まっております。吾々も負けずに母校の為、後輩のために頑張りたいと思いますので其節は御協力をお願いいたします。

なおアンケートに対する御意見は、本部、および各支部事務局にお送り下さい。



## 角笛会総会を開催

事務局長 鎌田 寛

平成13年度の総会が、6月30日土曜日午後、生物資源科学部で開催されました。今回は、日比野会長の要請により、総会に先立って、本年4月から獣医学科主任に就任された渡部敏教授(獣医学)により、大学改革の現状と将来に関する特別講演を戴きました。現在、とりわけ理系の大学に対する改革の呼び声は、農学系に置いては特に獣医学教育で最も強く呼ばれています。欧米各国の進めてきた獣医学教育レベルを国際的標準の下に置こうとする波が、日本にも押し寄せてきた結果であり、おりから独立法人化の様な国立大学、研究機関の組織変革も起こる等、内外の獣医学教育に向けられた要請はより高みを目指した地点に達しているわけです。ここに於いて、日本大学獣医学科の今後の中心を何に据えるべきか、慎重な論議がなされるべき現状にあります。渡部先生の御講演は獣医学科とその取り巻く環境を通説されました。総会に参集の校友諸兄は勿論のこと、各支部校友におかれても母校の曝されている状況に御注目戴けることを御願い申し上げます。

総会では、開催された幹事会で諸られた事業計画、会計収支、予算案、功労表彰者等が、総会の審議を受け、了承されました。本年度の功労表彰者は、天羽一郎(山形)、川島毅(岐

阜)、原田良徳(熊本)、竹村守暉(高知)、小林靖典(長野)の5名で各氏に表彰状と記念品を差し上げ、その永年に渡る角笛会への貢献に表敬しました。同様に本年度のANMEC支援基金は、加納星助手(獣医臨床病理学:「レブトスピラ症の迅速診断法の確立」)に授与致しました。

次いで、会長始め執行部より角笛会の獣医学科学生に支援をする為には全国会員の力を借り、勉学の機会を設ける案が提案され、総会は、新たな方針として、これを採択しました。この案につきましては、本紙中に会長よりその趣旨が報告されておりますので、御高覧戴くと共に、何卒実現に向けて御協力を賜れます様、御願いする次第であります。

各支部には、在学生、新規卒業獣医師等と諸先輩達とが相互に知り合う為、積極的交流の機会作りを御願いし、その具体的方策は、事情に合わせ各支部に委ねられることになりました。また、今後の会と大学当局との関係の一層の向上の為には、大学と各県支部との交流を深める事が一層重要である、との意見が多く出ました。

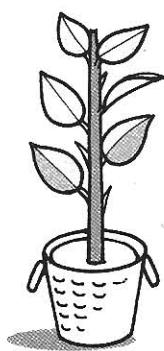
総会終了後の恒例の懇親会では、酒井健夫学部次長、渡部主任より御挨拶を戴きました。他学科校友会来賓も御臨席下さり、参加会員

学科主任  
あいさつ獣医学科主任  
渡部 敏

本年4月より、不肖私が学科主任を仰せつかりました。浅学菲才、非力を憂えておりますが、最善を尽くす所存でありますので今後とも校友諸公のご協力をお願い申し上げます。

ご存知のように近年、獣医学教育の充実と国際化が叫ばれています。平成9年2月、大学基準協会は「獣医学教育に関する基準」を改定しました。その新基準によれば、獣医学教育および研究は「獣医学部」あるいはこれに相当する学部組織により実施し、付属施設として各大学は獣医学教育病院の他に「獣医臨床センター」および「先端的動物研究センター」を設置する必要があります。更に選択して設置する施設として、「公衆衛生臨床研修センター」、他に三センターが上げられています。平成12年3月、日本学術会議獣医学研究連絡委員会は「わが国の獣医学教育の抜本的改革に関する提言」として、獣医学教育および研究は「獣医学部」において行うものとし、社会の要請に対応した獣医学教育を国際的水準に到達させるために抜本的改革を行う必要あることを提言しています。平成13年4月、全国大学獣医関係代表者協議会会長(唐木英明 東京大学教授)から、「獣医学教育基準の達成に関する要望書(通知)」が各関係大学学長、総長宛に送付されました。その中で「各私立大学が建学の精神にそって獣医学部教育の整備充実に向けて一層努力することを要望する」と述べています。この要望書は先の日本学術会議報告と同様に獣医学教育および研究は言うまでもなく「学部教育」であり、その整備および充実を促しています。平成13年6月、文部科学省は大学の構造改革の方針を「遠山プラン」として表明しました。その骨子は、国立大学の再編・統合、民営化および国公私立大学トップ30校の世界最高水準化であります。

以上のように国立大学の再編整備は最早目前に迫っています。それに伴って私立獣医学大学における獣医学教育の充実と国際化は避けられない状況にあります。今や学部当局は元より獣医学科教員と校友諸公が一丸となってこの難局を乗り切らなければなりません。重ねてご協力の程宜しくお願い申し上げます。



が旧交を温め合いました。新任の三浦康男(獣医衛生学)、見上彪(獣医公衆衛生学)両教授も出席され、御挨拶を戴きました。また校友会茂澤茂会より祝辞を賜りました。今回、日比野会長の御尽力により嘗ての東京高等獣医学院(T·V·C)校歌(北原白秋詞、山田耕作曲)が、室内に流れました。初めてこれを耳する会員も居ました。和やかな内に、定期午後6時に散会となりました。

# ANMEC関連記事

## ANMECだより

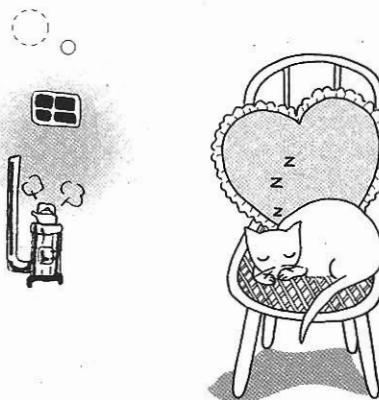
診療部長 津曲 茂久

我が国の大大学としては最も充実した有給研修医制度が発足して3年目を迎える。現在、前期課程（1年次、2年次）に5名、後期課程（1年次、2年次）に2名の計7名が所属している。前期課程では全般的な診療技術の取得、後期課程ではより高度な専門技術の取得を目指している。最終学年の揃う平成14年度には、合計10名体制になる予定である。この11月には次年度の新規研修者の採用試験が実施されるが、日大の出身者だけでなく、国立大学や他の私立大学からの応募もあり、これまで最大の応募者数になると思われる。

ANMECの診療実績は開設以来着実に増加しており、今年も全国獣医科大学の中で第2位の実績を維持しそうである。昨年の秋には、開設5年目で病院が手狭となったために、診察室、事務室、待合室、研修医室、資料室などが増築された。これでも、臨床教育を充実するには手狭であることから、近い将来には本格的な動物病院の増設が焦眉の課題になると思われる。

同僚私立大学は臨床教育を旗印に懸命の努力を開始しており、しかも学科レベルではなく学部レベルに移行しつつある。勿論、教育施設と教職員数が増えれば国際化に対応できるというものではないが、当学科がすぐに学部体制に移行できない現状を鑑み、国際化の教育体制だけは先取りすべきと思われる。アメリカの大学には国内の大学で分類しているような基礎、応用、臨床の区分は存在せず、殆どが臨床である。例え基礎と思われる科目があったとしても、臨床との関係を離れては存在しないと思われる。事実、アメリカの一部大学では表面的な基礎学科の中に放射線、麻酔、臨床病理などが含まれており、区分することすら困難である。

ANMECセミナーにおいては将来の教育を試行するために臓器別疾患シリーズおよびマニュアルシリーズを開始した（今年からは感染病防御シリーズも開始）。とりわけ、臓器別疾患シリーズでは従来の縦割り教育の弊害を是正するために、基礎教員と臨床教員が協力して教授する方法を取り入れている。従来は、未熟である学生に大きな負担を負せてきたきらいがあるが、これからは教員が大きな負担を負うべき時代といえる。平成12年度のセミナー実施状況は右記の通りである。



### 平成12年度 ANMECセミナー（第55回～第65回）

#### 第55回 (H12.4.17開催)

参加者123名（外部：16名・内部：107名）

教育講演：桑原 正人（獣医放射線学）

第3回マニュアルシリーズ：  
急性腹症の対応と画像診断

#### 第56回 (H12.5.15開催)

参加者221名（外部：12名・内部：209名）

教育講演：第3回臓器別疾患シリーズ：

慢性肝炎の病態と治療

1. はじめに：慢性肝炎の症例の紹介  
亘 敏広（総合臨床獣医学）

2. 肝臓の形態および構造：  
木村順平（獣医解剖学）

3. 肝臓の構造：金山喜一（獣生生理学）  
大谷 功（獣生生理学）

4. 慢性肝炎の病態と組織像：  
佐藤常男（獣医病理学）

5. 慢性肝炎の治療：浅野隆司（獣医薬理学）

#### 第57回 (H12.6.19開催)

参加者168名（外部：15名・内部：153名）

症例報告：

①宮崎 良雄：犬のアジソン病の1例

教育講演：鯉江 洋（獣医総合臨床学）  
第4回マニュアルシリーズ：  
心疾患診断の実際

#### 第58回 (H12.7.17開催)

参加者107名（外部：16名・内部：91名）

教育講演：第4回臓器別疾患シリーズ：

犬のリューマチ様関節炎

1. 犬のリューマチ様関節炎の概略：  
小坂俊文（獣外科学）

2. 犬の関節の解剖：木村順平（獣医解剖学）

3. 犬のリューマチ様関節炎の病態生理：  
金山喜一  
大谷 功（獣生生理学）

4. 犬のリューマチ様関節炎の病理的所見：  
佐藤常男（獣医病理学）

5. 犬のリューマチ様関節炎の薬理：  
浅野隆司（獣医薬理学）

6. 犬のリューマチ様関節炎の最新の治療法：  
小坂俊文（獣外科学）

#### 第59回 (H12.9.25開催)

参加者129名（外部：6名・内部：123名）

症例報告：①阿部 葉子：

経皮的頸静脈寒栓術を行った犬の  
肝内門脈シャントの1例

教育講演：北川 勝人（研修医）

第5回マニュアルシリーズ：  
神経検査について

#### 第60回 (H12.10.23開催)

参加者119名（外部：7名・内部：112名）

教育講演：第5回臓器別疾患シリーズ：

ネコの慢性腎不全

- はじめに：浅野和之（獣医外科学）
- 腎臓の解剖：木村順平（獣医解剖学）
- 腎不全の病態生理：大谷 功（獣生生理学）
- 腎不全の病理：佐藤常男（獣医病理学）
- 腎不全の臨床病理：加納 墓（獣医臨床病理）
- 腎不全の治療：浅野和之（獣医外科学）

#### 第61回 (H12.11.20開催)

参加者99名（外部：5名・内部：94名）

症例報告：

①山内 理恵：副腎腫瘍による副腎皮質機能亢進症の犬の1例

②谷内 愛：糖尿病の猫の1例

教育講演：津曲 茂久（臨床繁殖学）

第6回マニュアルシリーズ：内分泌検査について

#### 第62回 (H12.12.18開催)

参加者113名（外部：8名・内部：105名）

教育講演：第6回臓器別疾患シリーズ：皮膚科疾患

- イヌ・ネコの皮膚の解剖：  
木村順平（獣医解剖学）

2. 皮膚の局所免疫応答：  
加納 墓（獣医臨床病理学）

3. 皮膚浅層血流 一血流の測定法と判定意義：  
中村遊香（獣医科内科）

4. 皮膚科領域の病原医動物：  
野上貞雄（医動物学）

5. 魚類の皮膚の特徴と皮膚病：  
森友忠昭（魚病学）

6. 臨床例：亘 敏広（総合臨床獣医学）

#### 第63回 (H13.1.15開催)

参加者84名（外部：12名・内部：72名）

症例報告：

①村松 真人：慢性リンパ球性白血病の犬の1例

②宮崎 良雄：

犬のリンパ球形質細胞性腸炎11例の臨床像

教育講演：浅野 和之（獣医外科学）

第7回マニュアルシリーズ：超音波診断

#### 第64回 (H13.2.19開催)

参加者49名（外部：7名・内部：42名）

教育講演：大場茂夫（獣医内科学）

第7回臓器別疾患シリーズ：歯科治療

#### 第65回 (H13.3.19開催)

参加者84名（外部：5名・内部：79名）

症例報告：

①岩上 悅子：DICを起こした線維肉腫の猫の1例

②町田 竜彦：猫のリンパ球性胆管肝炎の1例

教育講演：椎橋 孝（医動物学）

第8回マニュアルシリーズ：  
小動物臨床における寄生虫検査

**ANMEC関連記事****平成11年度 ANMEC助成金受賞者報告**

1、犬の僧帽弁閉鎖不全症における心エコー検査と心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP)の関連性について

獣医総合臨床学研究室 鯉江 洋

**【はじめに】**

心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP)は主に心房が伸展することにより分泌されるペプチドホルモンであり、強力なナトリウム利尿作用および血管拡張作用を有する。今回われわれは僧帽弁逆流(MR)の認められた犬の血中ANP値を測定すると同時に心エコー図法にて左心房径と大動脈径を計測しそれらの関連性を検討した。

症例および検査方法：日本大学アニマルメディカルセンターに来院したMR犬9例を対象とし胸部レントゲン検査、心電図検査および心エコ図検査(HITACHI EUB-565A)を行った。大動脈径(AO)および左心房径(LA)は長軸断面または短軸断面大動脈弁レベルで計測した。血漿ANP値の測定はイムノラジオメトリークアッセイ法(シオノリニアANP；シオノギ製薬)により定量的に測定した。対象として臨床上健康なビーグル犬5頭に同様の検査を実施し比較を行った。MR群と正常犬群との平均値の差の検定にMann-WhitneyのU検定を用い、また血漿ANP値とLA/AO比の相関関係の解析には回帰分析を用いた。

**【結果】**

MR 9例の血漿ANP値はLA/AO比が増大するとともに明らかに上昇していることが確認された。両者の間には有意な相関関係( $r=0.65$ ,  $p<0.01$ )が認められた。MR群と正常犬群のANP値の間には有意な差( $p=0.0063$ )が認められた。また両者間のLA/AO比にも有意な差( $p=0.0195$ )が認められた。正常犬5例にはLA/AO比の増大および血漿ANP濃度の上昇はみられなかった。

**【考察】**

MRによるLA/AOの上昇は左心房の容量過負荷を示しており、それにより左心房筋の伸展が起こり心筋内に顆粒として存在していたANPが体循環内に過剰に分泌されたものと考えられる。ヒトおよびイヌのα-ANPはそれぞれ100%相同であり、今回の測定法はイヌANP濃度測定にも応用が可能である。今回我々は臨床症状および心エコ図検査での左心房の拡張の程度と血中ANP濃度をそれぞれ比較し、ANP濃度から左心房拡大の程度を推定できる可能性を示唆した。

**平成13年度獣医学科担任**

- |                      |
|----------------------|
| 1年次：浅野 隆司 (獣医病理学)    |
| 渋谷 久 (獣医病理学)         |
| 2年次：金山 喜一教授 (獣医病理学)  |
| 上床 和弘講師 (獣医伝染病学)     |
| 3年次：月瀬 東教授 (獣医解剖学)   |
| 森友 忠昭助教授 (魚病学)       |
| 4年次：中西 照幸教授 (魚病学)    |
| 丸山 総一助教授 (獣医公衆衛生学)   |
| 5年次：田中 茂男教授 (獣医学外科学) |
| 鎌田 寛助教授 (獣医微生物学)     |
| 6年次：野上 貞雄教授 (医動物学)   |
| 木村 順平助教授 (獣医解剖学)     |

**2、肝内性PSSの犬2症例に対する**

経静脈的コイル塞栓術

獣医学研究室 浅野 和之

**【はじめに】**

犬の肝内性PSSの根本治療は外科的矯正術であるが、技術的に難しく、合併症の発生率や死亡率も高いため、低侵襲で安全かつ簡便な治療法の確立が望まれている。今回、肝内性PSSの犬2症例に対し、経静脈的コイル塞栓術(Transvenous Coil Embolization; TCE)を施行して良好な治療成績が得られたため、概要を報告する。

**【症例】**

**症例1：**ミニチュア・ダックスフンド、雌、3ヶ月齢で、体重は3.1kgであり、神経症状を主訴に日本大学動物病院に来院した。MRAと門脈造影検査によって、左静脈管開存症タイプの肝内性PSSであると診断され、シャント血管閉塞のためにTCEを行った。

TCEにはジャクソン・デッチャブル・コイル・デリバリー・システムを用い、右頸静脈に6Frのシーズ・カテーテル・イントロデューサーを経皮的に設置後、5Frの多目的カテーテルを挿入してシャント血管にアプローチし、デリバリーワイヤーを用いて塞栓用コイルをシャント血管に

配置した。

手術翌日には特に臨床症状は認められず、以後良好に推移した。術後約4ヵ月目に門脈造影検査を行った結果、シャント血管の完全閉塞が確認された。

**症例2：**ミニチュア・ダックスフンド、雄、11ヵ月齢で、体重は3.0kgであった。他院にて門脈造影検査によって肝内性PSSであると診断され、日本大学動物病院に紹介された。門脈造影検査を実施した結果、静脈瘤形成を伴う单一のシャント血管が中央肝区域を走行し、肝内で後大静脈に吻合していることが確認された。

初診より約1ヵ月後、約3ヵ月後、約11ヵ月後に治療の目的で3回TCEを施行した。TCEにはプラチナ製マイクロコイル・デリバリー・システムを用い、各々腹部に小切開を加え、腸間膜静脈から3Frのマイクロコイル用カテーテルを挿入し、シャント血管内にまで誘導してプラチナ製マイクロコイルを留置した。

現在、3回目のTCE後2週間に経過した段階であるが、体重の増加が認められ、治療を一切せずに臨床症状や神経症状は認められていない。

**【まとめ】**

今回、肝内性PSSの犬2症例に対してTCEを施行したところ、臨床症状および肝機能は改善し、内科療法を中止することが可能となった。以上のことから、TCEは犬の肝内性PSSにおける安全かつ簡便に実施することが可能な低侵襲治療法として有望であることが示唆された。

**学部・学科関連News****平成13年度 獣医学科入試状況**

平成13年度獣医学科の入試状況は、A方式(本校)試験が受験者数2,168名・合格者数107名で倍率20.2倍、B方式(地方)試験が受験者数582名・合格者数26名で倍率22.4倍となりました。昨年に比べて本校試験の倍率は減少し、地方試験の倍率が増加しました(表参照)。

実際に入学した新入生は男子59名、女子92名の総計151名です。男女比は39:61で昨年度(41:59)

より女子の比率が増加しました。新入生の出身地を県別にみると、北海道-1、青森-2、宮城-1、山形-3、福島-1、栃木-2、群馬-3、茨城-5、埼玉-8、東京-32、神奈川-28、千葉-14、長野-1、山梨-1、新潟-2、富山-2、石川-2、静岡-6、愛知-7、岐阜-3、京都-2、滋賀-2、大阪-3、兵庫-1、岡山-4、広島-2、島根-1、愛媛-2、福岡-4、大分-2、熊本-1、宮崎-1となり例年通り関東近県が多くなっています。また、この他2年生に学内編入試験により動物資源科学科卒業生が5名(男子1名、女子4名)入学しております。

(記事：上床和弘)

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
指定校推薦(普通科)	学部全体で77名	34 (25)	13 (11)	2.6
指定校推薦(関連産業後継者)	学部全体で33名	3 (3)	1 (1)	3.0
公募制推薦(普通科)	学部全体で66名	50 (35)	10 (9)	5.0
公募制推薦(関連産業後継者)	学部全体で33名	23 (9)	7 (4)	3.3
公募制(技能)	学部全体で22名	14 (10)	2 (1)	7.0
本校試験	50名	2,373 (1,123)	107 (59)	20.2
地方試験	10名	590 (302)	26 (10)	22.4

**新入生  
歓迎会開催**

去る平成13年4月26日、生物資源科学部湘南キャンパス食堂棟3階NUSCホールにて学科の恒例行事である獣医学科新入生歓迎会が開催されました。角笛会より日比野次郎会長、鳥海弘副会長そして多数の学科教員また新入生の参加をえられ、総勢210名以上におよぶ大歓迎会になりました。今回の歓迎会の特徴としては多数の賞品を用意したbingoゲームで、新入生に大盛況でした。角笛会より贈呈された特賞の自転車を

筆頭にぬいぐるみや図書券など様々な景品を用意し、当てる過程で新入生同士の交流や親睦が深められたことだと思います。また宴会時においても先輩、後輩の垣根なく会話を交えたことは、入学3週間足らずで不安な一年生にとって大きな糧になったことだと思います。6年間という長い道のりの中で、この会が新入生にとっていい思い出になったことと確信しております。このように盛会裡にとりおこなうことができましたことは、偏に諸先生方また関係者皆様のご支援の賜物と、この場をかりて深くお礼を申し上げます。

(記事：渋谷久)

## 平成13年度獣医学科国家試験

第52回獣医師国家試験は2001年3月6日・7日の両日、早稲田大学にて開催され、3月17日午前10時農林水産省にて、合格者が発表されました（詳細は昨年度から、農林水産省のホームページhttp://www.lin.go.jp/maff/frame04.htmlに掲載されるようになりました）。本学では、新卒者151名が受験し、内138名が合格しました。合格率は91.4%でこれは、全国平均89.3%を上回り、全国獣医学系大学16校中6位、私立獣医学系大学5校中2位の成績がありました。尚、今回の試験より出題傾向が変わり、症例に対して、総合的に判断できる能力が問われる様になった為、多くの学生は不安の中での受験でしたが、日頃の学生諸君の努力の甲斐あり、高い合格率を得る事ができました。国家試験対策委員会の学生諸君による早期からの取り組みが効を奏したことも成功の一因でしょう。教職員、学生共々誇りに思っております。（記事：木村順平）

研究生)、企業6%((株)科学飼料研究所、(株)日研科学、(株)共立商事、(株)昭和産業、(株)日本全薬工業、(財)日本食品分析センター)大動物臨床3%（北海道農業共済組合連合会、千葉県農業共済組合連合会、熊本県経済農業協同組合連合会）、海外青年協力隊1%となっています。6年間担任としておつき合いしてきました諸君達が、社会に羽ばたかれ、各分野で活躍される事を切に期待したいと思います。数年後の同窓会で社会の中核を担っているであろう皆さんにお会いできることを楽しみにしております。（記事：木村順平）

## 平成13年度 ワシントン州立大学夏期獣医臨床研修を終えて 獣医学科 田中茂男

澄み切った青空、黄金色に輝く小麦畑がどこまでも続くワシントン州郊外の風景。何度訪問しても印象的なこの田園風景に囲まれた町ブルマン、その中心の丘陵地に広大なキャンパスを有するワシントン州立大学(WSU)があります。

本年度も日本大学との姉妹校であるワシントン州立大学獣医学部において夏季獣医臨床研修が7月25日から8月6日の2週間にわたり開催されました。参加学生は獣医学科の5年生25名、6年生1名の計26名で「小動物医学・神経学コース」、「小動物医学・エキゾチックコース」、「馬医学コース」の3コースに分かれて実施されました。それぞれのコースは朝8:00から開始し、17:00の終了まで、小人数のグループ（1班2人）に分かれて実施さ

れました。各コースの教授陣はそれぞれの専門家であり、的確な解説と実技、討論を交えながら十分に理解させる実習が行われました。受講学生は短期間に全てを学びとろうと真剣に取り組み、学ぶことの喜びを感じつつ充実した2週間の研修をあっと言う間に終了いたしました。また、この臨床研修期間中には各種の行事も企画され、WSUの教員や学生との交流が深められると共に、アメリカの文化や習慣を学ぶ貴重な機会となりました。修了式には一人一人に修了証が授与され、沢山の思い出を残し、黄金色に輝くブルマンを後にしました。



(引率教職員：田中茂男、木村順平、山谷吉樹、片田安子)

## 教員の動き

### ●退職

白井 弥先生（獣医病理学）

小坂 俊文先生（獣医外科学）が退職されました。

### ●昇格・移動

森友忠昭先生（魚病学）が助教授に昇格されました。

(平成13年4月1日付け)

### ●新任

見上彪教授（獣医公衆衛生学）

昭和13年2月11日生（台湾県台北市生まれ）



昭和32年3月北海道大学教養部水産類入学、昭和37年北海道大学獣医学部卒業、昭和39年同修士課程修了、昭和45年アメリカ合衆国カリフォルニア大学大学院獣医学研究科修了後、札幌医科大学講師、ハノーバー医科大学研究員、北海道大学助教授、東京大学教授、帯広畜産大学原虫病分子免疫研究センター教授を経て、平成13年4月より獣医学科の教授（研究所）。

専門は、獣医ウイルス学で、主に、マレック病ウイルスに関する研究に従事。

三浦康男教授（獣医衛生学）

昭和15年2月15日生（高知県）獣医学博士

昭和40年3月本学農獣医学部獣医学科卒業、同年4月農林省家畜衛生試

験場（現 独立行政法人農業技術研究機構動物衛生研究所）に入省、平成12年3月に退官。平成12年4月より平成13年3月まで、生物資源科学部獣医学科非常勤講師を経て、平成13年4月より獣医学科の教授（研究所）。

専門は、獣医臨床ウイルス学で、主に家畜のアルボウイルス感染症に関する研究に従事。主な研究成果は、豚の日本脳炎ウクチンの開発、牛の流行性異常産（アカバネ病、チュウザン病）の原因究明と予防法（ウクチン）の開発。

井上裕基助手（魚病学）  
昭和49年1月9日生（東京都）博士（獣医学）



平成3年本学獣医学科を卒業後、同大学院博士課程へ進学、平成13年3月修了。現在の研究の内容は、軟骨魚類における炎症性サイトカイン遺伝子のクローニングです。趣味は、美味しいもの食べることスキーリーという美食家兼スポーツマンです。今後、多くの優れた研究者を育成したいとの抱負をお持ちです。ぜひ、日本大学のために頑張ってください。

鈴木一由助手（獣医薬理学）



角笛会の会員のみなさん、はじめまして。私は今年の4月に縁あって獣医薬理学研究室に助手として勤務することとなりました。着任するまでは、日本全薬工業株式会社の中央研究所で動物用医薬品

## 表彰・学位の授与

### 【受賞】

獣医学研究室助手 中村遊香先生がこの度、日本医真菌学会奨励賞を受賞されました。この賞は満50歳未満の研究者を対象とした賞で、1991年から始まっています。これまでには医学系の40歳代の先生方が受賞されていましたが、昨年は獣医学系から中村先生が受賞されました。また、中村先生は日本大学生物資源科学部学長賞も併せて受賞されました。おめでとうございます。今後の益々の研究のご発展をお祈りいたします。

### 【受章】

この度、元日本大学教授望月公子先生が勲二等瑞宝章を受章されました。この章は勲労のある男子又は婦人に授与されるもので、望月先生の長年の研究成果ならびに獣医学における功労により受章されました。獣医学科一同心よりお祝い申し上げます。

### 【学位取得者】

今年度、学位を取得された方達は以下のとおりです。

#### 課程博士

永岡大典氏 イヌの膝間接滑膜における糖質の組織細胞化学的研究

井上裕基氏 イルカ好中球の活性酸素産出機構に関する分子生物学的研究

#### 論文博士

下田哲也氏 猫白血病ウイルス感染症の病態に関する研究

永田雅彦氏 大表皮構成細胞の増殖性疾患に関する研究

小西和世氏 イヌ及びネコ尿路由来大腸菌の尿路病原性に関する研究

の開発を担当していました。小動物の分野では、ノミおよびマダニ駆除剤であるフロントラインシリーズの学術を担当し、全国各地で製品の説明会をしていましたので、会員の方の病院にもお邪魔したことがあるかもしれません。また、犬用シャンプーとしてオートミール入りの抗搔痒抗炎症シャンプーである「オーツシャンプー」の導入開発や、新しい皮膚疾患治療目的のシャンプー開発を担当していました。

ここまで経緯から、犬や猫を主に研究活動をしていたように思われるかもしれません。私のライフワークは「産業動物の輸液療法」です。輸液療法は約160年前にスコットランドの医師Latteがヒトの下痢症に対して静脈内輸液を試みたのが始まりだといわれています。その当時は、留置針はありませんから静脈内投与の針に水鳥の羽の管を使ったそうです。これはベン先の応用だったようです。Latte以来、輸液療法は人医領域のみならず小動物および産業動物医療域で最も日常的な治療法のひとつであり、現代獣医療の最も基本的な治療法の一つであると思います。最も日常的な治療法なのですが、病態生理、薬理学の理論が縦横無尽に絡まっているため、輸液療法の理論は難しいと倦怠されている臨床獣医師も多いようです。私の仕事は新しい輸液剤を見いだすことではなく、安全に、効果的に輸液療法を実施できるよう調査研究することであり、日常の診療業務をサポートできればと考えています。今まで「牛」の輸液療法が主でしたが、今後は「牛と犬の輸液療法」について研磨していくたいと思いますので、角笛会の会員のみなさん、どうかよろしくお願いします。

## 角笛会関連記事

第39回

日本大学獣医学会(東京角笛会担当)  
が下記のよう開催されました。

担当学長 日比野次郎  
事務局 倉林恵太郎

開催日: 平成13年9月15日(土・敬老の日)  
場所: ホテルパシフィック東京

**セミナー『今日活かせる病因へのアプローチ  
~臨床検査のキーポイント』**

- ・竹村直行 先生(日本獣医畜産大学)  
「心臓疾患の症例に必要な身体検査  
~何がどこまで判るのか、  
判らなければいけないのか」
  - ・永田雅彦 先生(ASCどうぶつ皮膚病センター)  
「皮膚を診る」
  - ・南 翠生 先生(南動物病院)  
「皮膚のできもの鑑別診断:  
身体検査時に全てが決まる!」
- 一般口演 10題  
紙上発表 3題

## クラス会便り

### 昭和36年卒 「愛信櫻会」の活動

先輩・後輩諸氏が、医療や学術、教育、行政で活躍する様子を「愛信櫻会」で酒の魚にして懐かしく思い出しています。

「愛信櫻会」の会称は、受持主任の川田信平(解剖学教授)恩師の信と母校の櫻を敬愛する趣で卒業時に116名で組織しました。(13名と恩師「信平さん」は天国に住所を移しています。)

会の特色は伴侶を会員とし、年1回の開催時は知識向上の研修を組み込んでいること。また懇親の席で医院自営の傍ら新日本舞踊名取の大木瑞枝君が衣装を持参で妖艶な舞を披露し宴を賑わしてくれることです。さらに開催記録ビデオを一人ひとりに川泉君がプレゼントしてくれることです。

恩師没前は、東京を開催地として(倉林君・吉村君・川泉君・経徳君・片海君・武内圭子君・北川静子君・大木瑞枝君)音頭をとっていました。以降、各県の友が幹事長となり例えば群馬は水上で(阿久沢君)三重は伊勢で(鷲塚君・山川君)新潟は佐渡が島(大野君)広島は宮島で(谷浦君・石川君・中野君)鹿児島は桜島で(蔵田君・池田君)静岡は伊豆で(平井君・小出君)神奈川は江ノ島で(福田君・金澤君)北海道は釧路で(川崎君・上田君・大塚君・佐藤君・齊藤君)等が嬉しい思い出づくり創造しています。

20世紀最後は関西地区(鈴木君・益田君・山川君)が、新神戸から北神急行、神戸電鉄と乗り継ぎ、豊臣秀吉が千利をひきつれ、たびたび茶会をもった、関西の奥座敷の有馬温泉グランドホテルを会場として10月21・22日と開催しました。研修は福田君(獣医学科主任、微生物学教授)の「毒蛇咬症とその対策」でした。

有馬温泉の駅頭には鈴木君の奥方が自作「愛信櫻会」の幟纏で出迎には、一同「感謝の感激でした」部屋と10階の浴場からは六甲山脈に緑

## 支部会だより

### 熊本県支部

事務局長 田川 博稔(昭和42年卒)

近年支部長の健康状態が思わしくなく、2000年に突入したのを期に支部長を交代したらとの意見から、平成12年度の支部総会(平成12年11月5日)において、現事務局長が支部長に、現会計担当者が事務局長として今後熊本県角笛会の舵取りを任せられました。

何分浅学非才ではありますが、努力だけはいたすつもりでありますので、会員各位のご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

日頃より、「魅力ある熊本県角笛会」とはいかなるものかと役員会を開催する度に話題には上がるものの、会員の構成年齢が80代から20代、職業も開業獣医師、勤務獣医師、そしてOBとまちまち、確かに会員の県内在住者は70余名なれど支部

の総会を呼びかけても出席出来た人は毎年半数程度。

「何かをしなければ」との考え方から、毎年一同行っている支部の総会を、ただ単に同窓生同士が一同に会し「懇かしのメロディー」で盃を酌み交わすだけではどんなものかとの意見から、5~6年前より東京本部のパリパリの現役教授にお越しいただき、総会開始前1~2時間学術講演をお願いしています。

平成10年の総会時は田中茂男教授にお来しいただき「犬の骨及び関節疾患」と題して本部動物病院の現状について講演して頂くこととしたので県内の角笛会会員のみの受講ではもったいないと県獣医師会を通じて県内開業獣医師の受講を呼びかけ好評を博し、日大角笛会の面目躍如たるものがありました。

今一番の関心事は後継者問題です。「熊本県角笛会」としてはできるかぎりの後押しをやっていくことが今後の支部の躍進と確信しております。

### 熊本県角笛会新役員

会長 鹿江 幹郎(昭33卒)	副会長 池田 勝幸(昭36卒)	星子 哲郎(昭38卒)	作野 峰夫(昭46卒)
事務局長 田川 博稔(昭42卒)	会計担当 平野 孝昭(昭60卒)	会計監査 本武 久幸(昭43卒)	石原 貢一(昭50卒)

### 千葉県支

千葉県支部長 蓮沼 貞男(昭和24年卒)

平成12年度の総会が、去る12月10日千葉京成ホテルに於て催され、支部結成以来、毎年11月か12月頃の公務や業務のけじめのついで、又時間にゆとりの出来た時期に行われています。毎年角笛会本部から先生方に出席して戴いて居り、本年は「獣医学教育を巡る情勢について」と題して酒井健夫教授に学校や先生方の近況、そして現在の獣医学教育の実情や、来るべき21世紀の獣医学教育のあり方や指針について興味ある



研修をさせて戴きました。2年前迄は元気な姿で出席されて居た相川久雄先生の顔が見られず、非常に寂しい気持でしたが、先生の地方政治家としての50年余の足跡、実績の偉大さが今更ながら彷彿として私達の記憶に鮮やかに蘇ってまいりました。

平成12年3月に役員改選がなされ、今迄永らく県支部長として会の発展に御尽力なされた大川保治先生が一身上の都合で退任され、年の順として私がお引受け致しました。事務局長には岩田穎三先生が永年に亘り献身的な努力をなされて居ります。毎年の総会では会員相互の親睦を深めると共に、仕事上の突っ込んだ話し合いや、獣医技術上の指導並びに意見交換、後輩同僚等の近況報告、情報交換等に同窓の絆を深く感じます。同窓と言ふ集団は、確かに不思議な絆の強さを感じます。

今後は大学の良きパートナーとなる様、会員相互の親睦と福祉の増進を図り、母校の興隆発展に寄與するよう、会員一同努力していきたいと思います。



と紅葉が彩る景色を眼下に観ることができました。露天風呂では股間をぬける六甲吹き上げの風が冷たい。ブルルと震え湯に浸かり絶景と美酒に酔いました。

21世紀から「愛信櫻会」の代表世話を倉林恵太郎君。開催地は九州地区で熊本(池田君・三浦君・野口君(長崎)・竹下君・古賀君(佐賀)、その次は青森は(小比類卷君)が幹事長で全員集合を計画しています。

「愛信櫻会」会員は、いまも日々、あつい青春を愛する伴侶と、そして縁のきずなを大切にしています。

文 学籍簿1番 (青木)

注: 写真は、「愛信櫻会」有馬会場  
(有馬グランドホテル)

## 抗癌物質(茸)ハナビラタケの発見に至る、苦闘50余年

東京角笛会会員 中島 三夫(78才)  
(旧長島)

### (1)癌との出合

私は昭和15年4月に東京高等獣医学院に入学し、当時の校長先生は小倉鉢太郎先生で同校長先生は北海帝國大学病理学教授で停年になり東獣の校長がありました。先生には個人的に大変お世話になりました。感謝しております。

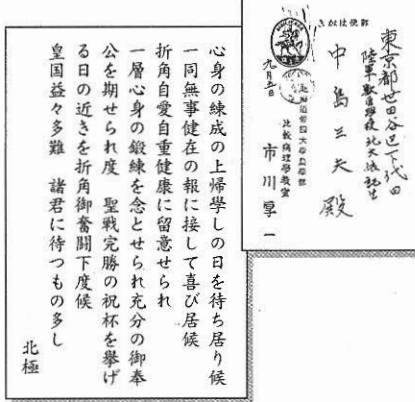
東獣の同期生で5千円札でおなじみの新渡戸稻造先輩の親戚の太田襄二君がおって同先輩の偉大なる業績について道玄坂の喫茶店での話はつきなかった。

私は新渡戸稻造先輩のような仕事を将来してみたいと思い、北海道帝國大学に受験する準備で、ドイツ語・高等数学・化学・物理の勉強に日夜熱を入れた。

運よく昭和17年9月北海道帝國大学農学部に合格し入学した。(現獣医学部)病理学の授業に出席したら、驚いたことに世界で初めて人工癌をつくりた市川厚一先生でこの時が「癌との出合となつた」。癌の病理学の本には必ず山極・市川先生の人工癌について世界で初めて人工癌を作製した人として、記載がある。しかし、人工癌の成功に至る経緯についての記載がない、そこで市川先生の講義で直接聴取した経緯について参考までにふれてみたい。人工癌の研究材料になぜコールタールを使用したかであるが、先生が人工癌の研究を実施した大正2年(先生が東北帝國大学農科大学畜産学科=現北大獣医学部卒業)頃はロシヤでは冬の暖房(現在のカイロ)に小さい火鉢に木炭を入れて腹の暖房に使用していた為?臍の周囲の皮膚癌から体内に転移した癌での死亡が極めて多く、ロシヤの医学界ではこの防止に躍起になっていた。この関係の論文が日本の医学界にも伝つてあり、東京帝國大学医学部病理学教室教授山極勝三郎先生と当时東京帝國大学医学部の大学院生であった、市川厚一先生が相談して人工癌の作製研究の化合物にコールタールを使用することが決り、日本白兎の耳の内側に筆で毎日塗布して、皮膚癌の形成に成功した。癌の名は乳頭腫 papiloma のことであったと言う。この時市川先生は喜びのあまり詠んだ句「癌出来つ、意気昂然と二歩、三歩」はあまりにも有名である。

私はこの頃から将来の方針をかえて癌病理学に一生をささげることに決意をかえた。ところが人間の進む道はまならないもので、丁度北大の2年目の頃、第二次世界大戦の決戦の時で一時癌病理をすべて北大の陸軍獣医所委託学生であったために、昭和19年7月21日世田谷の陸軍獣医学院に入校させられた。その後、昭和20年6月30日同校教育は終了して北大に帰学して病理学教室に復帰し、同教室で一生勉強出来るなと思っていたところ、昭和20年8月14日に私の自宅(熊谷市石原)も米軍の空襲で全焼し、一日も早く帰宅せよとの父親の命令でいやいやながら帰郷し焼失した家の片付、家の再建で約一年間熊谷に住むこととなり、再度北大に復帰するチャンスを失った。

しかし、市川先生はどうも私を北大に帰学させて病理学教室のアトガマにしたかったようであったが、陸軍獣医部の依託学生になると一生陸軍に勤務しなければならない軍規があり、先生の要請は私にとって無理のことであった。



### (2) 抗菌性物質との出合(含抗癌剤)

昭和21年10月に東京帝國大学農学部農芸化学生教授朝井勇宜先生から連絡があり、碧素(ヘキソ=現在のペニシリン)の培養・抽出・精製の仕事が人手不足で至急東大に来て手伝ってくれないか、とのことで毎日午前5時53分熊谷発の汽車で東大まで通勤した。私が獣医のためか同教室の実験用のマウス・ラットの飼育管理を命ぜられ日曜日・祝日の休みはなかった。当時実験動物の飼料が不足し私の実家が農家であったため、リックサックで運んだ。勿論教授の昼食用のシャリ(米)も運んだ。当時はハナビラタケは外観が美しく、食すると美味であり生物活性は何人も知らないので学号の報告がなかった。私自身、新発見と思い、胸がおどった。ハナビラタケの菌糸を量産して食品中毒の防止剤になると思い、その成分の分析を日本食品分析センターに依頼して本態の研究に入ろうとした。

私は他人に誤解されやすいタイプなのか、化学が堪能であるやに朝井先生からもみられていた(勿論私は化学物質の合成、その他カメノコがすきで毎日東大の図書館より、バイルシュタイン・ケミカルアブストラクトや、化学合成の本を借用して読んでいたためのようであった)。

昭和23年、朝井先生から日本化薬(株)で、タンク培養によるペニシリンの製造を計画しているので、同社でペニシリンの培養・抽出・精製し医薬品製造をやってみないかとのことで同社に入社した。当時は、ペニシリンの培養はガラススピンドルを使った表面培養であった。タンクの設計書は米国のGHQより頂いて、日本式の「鉄がま」で作製した。当時ペニシリンの研究をしていたのは明治製薬・理研・協和醸酵・森永製薬であり、タンク培養を開始したのは日本化薬(株)一社であった。

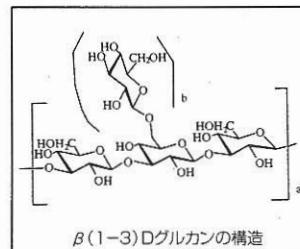
その後、マイシン属のストレプトマイシン・オーレオマイシンの培養・抽出・精製の仕事に従事し、抗癌性抗生物質、ブレオマイシンの培養・抽出・精製を行なったが、毒性が強くこの副作用の除去の研究に苦労した。副作用の無い癌の化学療法剤は現在に至っても無い。この副作用に耐えられる人の数は少ない。

### (3) 抗癌性・糖尿病・高血圧症に著効を示すハナビラタケ(茸)との出会い

昭和53年1月に日本化薬(株)を停年退職し、昭和53年4月に(株)ミナヘルスを設立して、化学品・健康食品・健康清涼飲料等の製造販売を開始した。

しかし、副作用の無い抗癌物質の探索に日々を過した。研究開始後、19年目に目的とする副作用の無い抗癌物質にめぐりあつた。その名は $\beta$ -1-3-D-グルカンであった。その構造式は次の通りである。

ハナビラタケがどうして抗癌性を有すること



を発明したか、そのいきさつを話してもらいたいとの要望が多くあるので次に記載する。

研究にはそれぞれ研究の材料を集める必要があ

り、特にハナビラタケは私の会社の他に日本では持っている処はない。日本・中国・韓国・東南アジアに於て自生している天然のハナビラタケがなく、入手不可能であるため、研究室で栽培するしか方法がなく、量産の研究を実施せざるを得なかった。一方、ハナビラタケの栽培方法培地の栄養分・温度・湿度・光線等栽培の最適条件の確立に労力と時間をついやした。実験成績の文献は世界中さがしてもなく、ただ小生の研究室での成績しかなかった為であった。

「失敗は成功の基」と言われるとおり、ハナビラタケは從来種菌の菌糸の培養に斜面寒天を使用するが、量産の為にルーコルベン百個を使用した。その一個に雑菌が混入していた。ハナビラタケ菌糸と雑菌がどんな態度をとるか毎日観察したするとハナビラタケ菌糸の周囲には雑菌が生育しない状態が観察された。雑菌は大腸菌と枯草菌であり、ハナビラタケ菌糸はバクテリアを防御する作用があるのでないか、当時はハナビラタケは外観が美しく、食すると美味であり生物活性は何人も知らないので学号の報告がなかった。私自身、新発見と思い、胸がおどった。ハナビラタケの菌糸を量産して食品中毒の防止剤になると思い、その成分の分析を日本食品分析センターに依頼して本態の研究に入ろうとした。

ところが日本食品分析センターの分析の結果、抗癌性を有するといわれる $\beta$ -グルカンが乾燥ハナビラタケ100g中43.6g含有されることが判明した。従来、日本に生息する茸は約3千種と言われているが、現在まで生息する茸の内最も大量に $\beta$ -グルカンを含むのがハナビラタケ(茸)であったので、私もその数字を疑った。本当にハナビラタケが抗癌性があるか実験するために、日本の学界で長期に亘って $\beta$ -グルカンの研究している東京薬科大学教授宿前利郎薬学博士を訪問して協同研究実施を依頼したが、 $\beta$ -グルカンが茸の半分も含有する茸はこの世には無いのではないか?と言ふことでなかなかこの含有量を信頼せず再々私も足を運んだ。たまたま教授室に来られた同教室の大野尚仁助教授(薬学博士、現教授)が、この数字が本当か誤か私が試験してみるとこととて、抗癌試験を実施することになった。30gのマウスにザルコーマ180型固形ガンを移植し、ハナビラタケ抽出物( $\beta$ -1-3-D-グルカン)を注射と経口投与して試験した処、顕著の効果があることが判明し、教授・助教授と共にハナビラタケの抗癌性の強力なことに驚いたと両者とも述べている。

詳細に知りたい方は次の論文を見て頂きたい。

Biol. Pharm. Bull. 23(7) 866-872(2000).

Autitumor 1,3- $\beta$ -glucan from Cultured Fruit Body of Sparassis Crispa.

抗癌物質探索に50余年研究し、70才過ぎによくやく、副作用の無い抗癌物質を大量に含むハナビラタケに出合った次第である。

本研究がもたらした、 $\beta$ -1-3-D-グルカンによって、各種癌患者・糖尿病・高血圧で悩んでいる多数の方々に利用して頂き、健康を一日も早く取りもどして頂ければ幸と存する次第である。

## 活躍する卒業生の職場

1

## 東京都畜産試験場

西木 秀人

(昭和59年卒、東京都)

東京都畜産試験場は、大正13年東京府種畜場として開かれ、昭和24年には現在の青梅市に移りました。名称を畜産試験場とし、試験研究業務を開始したのが昭和39年です。

「東京に畜産試験場」と聞いて驚かれる方も多いのではないでしょうか。事実、東京の畜産は、大消費地に近いという利点を活かして発展してきましたが、昭和30~40年代をピークに減少し続けています。これは押し寄せる都市化の波と環境問題、土地の制約等によるものですが、東京という困難な立地状況においても、畜産農家は都市環境との調和を図りつつ、産地直売やブランド化等によって特色ある都市畜産を展開しています。

意欲ある都内畜産農家の経営安定を図り、また都民、消費者の求める安全でおいしい畜産物の供給に必要な試験研究を行うことが試験場の役割です。現在、試験研究部門は豚、鶏、畜産環境について担当する環境畜産部と乳牛、飼料作物について担当する応用技術部の二部で構成されています。ご存じの方も多いと思いますが、味の良さを重視した豚「トウキヨウX」や鶏「東京しゃも」は、当场で作出され

たもので、大変好評を得ています。応用技術部では主に乳牛の飼養試験と飼料作物の栽培試験、受精卵の利用技術試験を行っていますが、この中で私は2名の研究員と共に受精卵の試験を担当しています。仕事は、高能力乳牛からの受精卵の採取、凍結保存、農家への配布、受精卵の性別といった実用的なものから、優れた遺伝的能力を有効利用するための体外受精技術や未受精卵の凍結保存技術の研究、細胞クローニング牛の作出といった試験的なものまで広範囲に実施しています。

最近のトピックといえば、超高能力乳牛（スーパーカウ）の細胞クローニング牛双子2組の誕生でしょうか（写真）。4頭は順調に成育中ですが、将来的に都内酪農家を元気づける材料となるように様々な試験を計画し、実施していく予定です。



2

## 恩賜上野動物園

半澤 典子

(平成11年卒)

私は畜産職として東京都へ入り、現在上野動物園で飼育係として働いて2年目になります。皆から「せっかく獣医学科を卒業したのに、なんで飼育係やっているの？」とよく質問されます。しかし、動物の生態や行動について興味があり、もっと彼等のことを知りたい、そして彼等のおもしろさをたくさん的人に伝え一緒に楽しみたい、と思っている私にとって、そんな願いをかなえられる現在の飼育係の仕事はまさに理想的なのです。

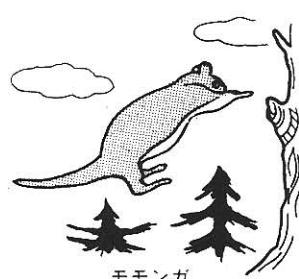
飼育係の仕事の基本は、動物が病気にならないよう飼育することで、毎日の栄養・衛生管理の全てが担当者に任されています。その上で、繁殖ということを考えます。具体的には、繁殖行動を促すために、巣材を入れたり、雌雄を同居させたり、限られたスペースの中で彼等が安心して繁殖できるような工夫をするわけです。

飼育係の仕事はこれだけではありません。一番大切なことは、来園者に動物をよく見てもらうことです。そのためには動物が生き生きとして、その動物が本来持っている特有の行動を引き出さなくてはなりません。例えば、アリクイの長い舌を見てもらうために給仕装置を工夫したり、止まり木の位置を工夫する

ことで、モモンガが滑空できるスペースを作ったり、担当者の工夫一つで今まで見られなかった動物本来の行動が引き出せるということに、私は魅力を感じています。

地球環境が急速に変化し、野生動物を守る重要性がますます高まっている中で、種の保存のために動物園ができることが多いと考えられます。それを効率よく実施するために今後はさらに、獣医、畜産という枠にとらわれず、幅広い視野に立って協力していくかなくてはならないでしょう。また、大学との協力でできる事も多いと期待しています。とはいっても、まだまだ日常業務をこなすのに精一杯で、毎日ドロマミれになつて働いている私です。これからも、もっと動物園が魅力あるところになるようがんばっていきたいと思っています。

動物園で私を見かけたら是非声をかけていただけたらと思います。



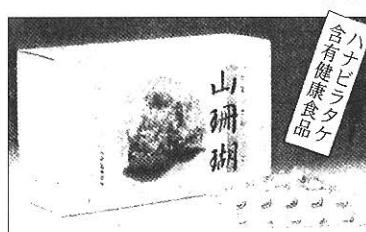
**幻のキノコといわれた  
ハナビラタケ**

人工培養に成功!!

癌の治療で話題のβ-グルカンが、ブラジル産アガリクスにくらべ、約3倍もの量が含まれている!!

血圧を低下させたり  
血糖値をおさえたり

β-グルカン	43.6g/100g
ビタミンD	3200IU/100g
ビタミンB <sub>2</sub>	1.63mg/100g
鉄	2.28mg/100g
食物繊維	6.3g/100g
水分	8.8g/100g
たんぱく質	6.9g/100g

**山珊瑚(やまさんご)**価格：30,000円(消費税・送料別)  
240粒入(約40日分)

お申し込み・お問い合わせ

**(株)ミナヘルス**埼玉工場 埼玉県大里郡妻沼町江波27  
〒360-0212 TEL(048)588-0066  
FAX(048)588-1297※お申込みは電話かハガキ・FAXで。  
※商品のお届けは10日以内。お支払いは代金引換。  
※商品到着後7日以内なら未開封につき返品可。

## 総会資料

**平成12年度一般会計収支決算報告書**  
自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日

## 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 頓	備 考
I. 支部会員費	1,300,000	1,694,000	394,000	1,694人分
今年度分	1,000,000	1,332,000	332,000	
過年度分	300,000	362,000	62,000	
II. 終身会員費	1,300,000	1,220,000	△ 80,000	59人分+2人分
III. 新入会員費	1,670,000	1,470,000	△ 200,000	学部後援会147名分
IV. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
V. 懇親会参加費	300,000	215,000	△ 85,000	H12総会関係
VI. 寄付金	0	0	0	
VII. 預金利子	3,330	2,169	△ 1,161	
VIII. その他	0	8,000	8,000	三重県名簿販売
当期収入合計(A)	4,773,330	4,809,169	35,839	
前期繰り越し額	2,846,670	2,846,670	0	H12総会決議より
収入合計(B)	7,620,000	7,655,839	35,839	

## 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 頓	備 考
I. 経常費	4,720,000	2,548,254	2,171,746	
1. 会合費	1,000,000	564,133	435,867	懇親会、会議等
2. 交際費	500,000	295,250	204,750	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	870,000	671,490	198,510	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	800,000	254,126	545,874	通信
5. 事務局運営費	1,550,000	763,255	786,745	給与、ソフト等
II. 会報費	800,000	514,500	285,500	会報16号
III. 名簿作成録入金	300,000	300,000	0	
IV. 名簿管理費	300,000	0	300,000	
V. 卒業生記念品費	500,000	213,570	286,430	平成12年度卒業生
VI. 学会補助費	200,000	200,000	0	第38回日大獣医学会
VII. 将来事業録入金	300,000	300,000	0	
VIII. 組織拡充費	140,000	30,000	△ 110,000	HP作成費
IX. 予備費	360,000	0	△ 360,000	
当期支出合計(C)	7,620,000	4,106,324	3,513,676	三菱銀行
当期収支差額(A-C)	△ 2,846,670	702,845	3,549,515	
次期繰越収支差額(B-C)	0	3,549,515	3,549,515	

**平成12年度特別会計Ⅰ 収支決算報告書(名簿会計)**

自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日

## 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 頓	備 考
I. 名簿作成録入金	300,000	300,000	0	三菱定期
II. 預金利子	21,368	36,351	14,983	大和証券/定期(3)
III. 繰越金額	0	0	0	
当期収入合計(A)	321,368	336,351	14,983	
前期繰越額	3,518,632	3,518,632	0	
収入合計(B)	3,840,000	3,854,983	14,983	

## 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 頓	備 考
I. 名簿印刷費	0	0	0	
II. 送料	0	0	0	
III. 名簿作成費	3,530,000	0	△ 3,530,000	
IV. 予備費	310,000	0	△ 310,000	
当期支出合計(C)	3,840,000	0	△ 3,840,000	
前期繰り越し額	3,518,632	3,518,632	0	
当期収支差額(A-C)	△ 3,518,632	336,351	3,854,983	
次期収支繰越差額(B-C)	0	3,854,983	3,854,983	

保管状況  
 三菱定期3ヶ月 ¥600,521  
 大和証券公社債 ¥3,254,462 ¥3,854,983

**平成12年度特別会計Ⅱ 収支決算報告書(支援基金・将来事業資金)**

自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日

## 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 頓	備 考
I. 将来事業録入金	300,000	300,000	0	三菱定期
II. 預金利子	16,817	20,495	3,678	大和証券/定期(1)
当期収入合計(A)	316,817	320,495	3,678	
前期繰越収支差額	7,283,183	7,283,183	0	
ANMEC支援基金	2,633,183	2,633,183	0	大和証券
将来事業基金	4,650,000	4,650,000	0	
収入合計(B)	7,600,000	7,603,678	3,678	

## 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 頓	備 考
I. 研究助成費	500,000	500,000	0	鯉江・浅野先生へ
II. 外国専門医招聘料	150,000	0	△ 150,000	
予備費	2,300,000	28,647	△ 2,271,353	手数料
将来事業基金	4,650,000	0	△ 4,650,000	
当期支出合計(C)	7,600,000	528,647	△ 7,071,353	
当期収支差額(A-C)	△ 7,283,183	△ 208,152	7,075,031	
次期繰越収支差額(B-C)	0	7,075,031	7,075,031	

保管状況  
 三菱定期1ヶ月 ¥600,446  
 大和証券MMF ¥6,474,585 ¥7,075,031

研究助成内訳  
 鯉江 洋 研究題目:犬の僧帽弁閉鎖不全症における心エコー検査と心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP)の関連性について  
 浅野和之 研究題目:ANMECにおけるインターベンションナル・ラジオロジー(Interventional Radiology)による低侵襲治療法の確立

# 総会資料

## 平成13年度一般会計 予算案

自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日

### 収入の部

科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	差 頓	備 考
I. 支部会員費	1,200,000	1,300,000	△ 100,000	1200名@1,000円
今年度分	1,000,000	1,000,000	0	
過年度分	200,000	300,000	△ 100,000	
II. 終身会員費	1,300,000	1,300,000	0	65名@20,000円
III. 新入会員費	1,500,000	1,670,000	△ 170,000	学部後援会
IV. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
V. 懇親会参加費	250,000	300,000	△ 50,000	50名@5,000円
VI. 寄付金	0	0	0	
VII. 預金利子	3,485	3,330	155	
VIII. その他	0	0	0	
当期収入合計(A)	4,453,485	4,773,330	△ 319,845	
前期繰り越し額	3,549,515	2,846,670	702,845	
収入合計(B)	8,003,000	7,620,000	383,000	

### 支出の部

科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	差 頓	備 考
I. 経常費	4,750,000	4,720,000	30,000	
1. 会合費	1,000,000	1,000,000	0	懇親会、会議等
2. 交際費	700,000	500,000	200,000	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	1,000,000	870,000	130,000	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	500,000	800,000	△ 300,000	通信
5. 事務局運営費	1,550,000	1,550,000	0	給与、ソフト等
II. 会報費	800,000	800,000	0	会報17号
III. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	特別会計Iへ
IV. 名簿管理費	300,000	300,000	0	業務委託等
V. 卒業生記念品費	500,000	500,000	0	平成13年度卒業生
VI. 学会補助費	200,000	200,000	0	第38回日大歯医学会
VII. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	特別会計IIへ
VIII. 組織拡充費	470,000	140,000	330,000	情報ネット化調査費
予備費	383,000	360,000	23,000	
当期支出合計(C)	8,003,000	7,620,000	383,000	
当期収支差額(A-C)	△ 3,549,515	△ 2,846,670	△ 702,845	
次期繰越収支差額(B-C)	0	0	0	

## 平成13年度特別会計 I 予算案(名簿会計)

自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日

### 収入の部

科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	差 頓	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 預金利子	31,017	21,368	△ 9,649	
当期収入合計(A)	331,017	321,368	△ 9,649	
前期繰り越し額	3,854,983	3,518,632	△ 336,351	
収入予算合計(B)	4,186,000	3,840,000	△ 346,000	

### 支出の部

科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	差 頓	備 考
I. 名簿印刷費	0	0	0	
II. 送料	0	0	0	
III. 名簿作成積立金	3,866,000	3,530,000	336,000	
IV. 予備費	320,000	310,000	10,000	
当期支出予算合計(C)	4,186,000	3,840,000	346,000	
当期収支差額(A-C)	△ 3,854,983	△ 3,518,632	△ 336,351	
次期繰越収支差額(B-C)	0	0	0	

## 平成13年度特別会計 II 予算案(支援基金・将来事業資金)

自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日

### 収入の部

科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	差 頓	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 預金利子	24,969	16,817	8,152	
当期収入合計(A)	324,969	316,817	8,152	
前期収支繰越差額	6,775,031	7,283,183	△ 508,152	
1. ANMEC支援基金	2,125,031	2,633,183	△ 508,152	50万円ANMEC
2. 将来事業基金	4,650,000	4,650,000	0	
収入予算合計(B)	7,100,000	7,600,000	△ 500,000	

### 支出の部

科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	差 頓	備 考
I. 研究助成費	500,000	500,000	0	ANMEC関係
II. 外国専門医招聘料	150,000	150,000	0	ANMEC関係
III. 予備費	1,200,000	2,300,000	△ 1,100,000	
IV. 将来事業基金	5,250,000	4,650,000	600,000	
当期支出合計(C)	7,100,000	7,600,000	△ 500,000	
当期支出差額(A-C)	△ 6,775,031	△ 7,283,183	△ 508,152	
次期繰越収支差額(B-C)	0	0	0	

### 編集後記

海外では航空機、炭疽菌による同時多発テロ事件。国内では口蹄疫に続き牛海面状脳症の発生と、まったく予期せぬ出来事により、平和な生活が突然崩れてしまう恐ろしさを知りました。平和な時こそ危機管理をしっかりやっておかなければ、と痛感する今日この頃です。

2001年12月12日 (丸山総一 昭和57年卒)